

超

*Ultra
Mind Control*

コンマインド コントロール

日本人はいつまで騙され続けるのか！

池田整治

ikedai seiji

超マイントロピカル

Ultra
Mind Control

本人はいつまで騙され続けるのか！

他田整治

ikeda seiiji

常州大学图书馆
藏书章

池田整治

(いけだ・せいじ)

1955年愛媛県愛南町生まれ。防衛大学校国際関係論卒業。陸上自衛隊入隊。小平学校教育訓練部長、陸上自衛隊陸将補を定年前に退官。1990年代半ばの第一次北朝鮮危機における警察との勉強会、それに続くオウム真理教が山梨県上九一色村に作ったサティアンへの強制捜査に自衛官として唯一人同行支援した体験等から、世の中の「本当の情勢」を独自に研究。著書に『心の旅路』（新日本文芸協会）、『マインドコントロール』『マインドコントロール2』（ともにビジネス社）、『転生会議』（共著・ビジネス社）がある。空手道七段。全日本実業団空手道連盟理事長、東芸術倶楽部顧問、美し国副代表などを務めている。

企画・構成——中島孝志

装丁・デザイン——山田英春

ちょう
超マインドコントロール にほんじん だま つづ
日本人はいつまで騙され続けるのか!

2011年9月15日 第1刷発行

2011年10月13日 第4刷発行

著者……池田整治

発行者……石崎 孟

発行所……株式会社マガジンハウス

〒104-8003 東京都中央区銀座3-13-10

電話 受注センター 049-275-1811

書籍編集部 03-3545-7030

印刷・製本……株式会社リーブルテック

乱丁・落丁本は小社製作部宛にお送りください。送料小社負担でお取り替えいたします。

定価はカバーと帯に表示してあります。

<http://magazineworld.jp/>

©2011 Seiji Ikeda, Printed in Japan

ISBN978-4-8387-2334-8 C0095

はじめに 世界一愚かな政府と世界一賢い国民

寝た子を起こした——これがいまの日本と日本人に対する見方です。

いま、日本人は戦後、植え付けられてきたマインドコントロールからどんどん目覚めていきます。十年前、いや去年の日本人と比べてもまったく新しい日本人へと生まれ変わっているでしょう。

逆に言えば、それほど、いままでのマインドコントロールが強力だったといえるのかもありません。

日本と日本人を「縛り」から解き放してくれたのはなにか？ それは、ひとえに歴代アメリカ合衆国大統領であり、中国国家主席であり、北朝鮮の首領様であることは言うまでもありません。しかも直近のオバマ大統領、胡锦涛主席がとくに貢献しているおかげで、日本は急激に「普通の国」になりつつあるのです。

それだけではありません。米中発の情報をチェックせず鵜呑みにして報道する大手メディアの貢献も忘れてはいけません。国民は彼らよりずっと賢いので、テレビや新聞を信用しなくなってきたのは喜ぶべきことだと思います。

そして、なにより最大級の貢献者は政治家と官僚、そして大企業経営者です。

三・一一の東日本大震災以降、東京電力福島第一原子力発電所をめぐるドタバタを見るにつけ、いかに政治家、とくに日本の首相には致命的といってもいいほど、リーダーシップが欠如しているかを日本国民は認識できました。同時に、「キャリア組」といわれる官僚がいかに無能なのか、日本を代表する企業経営者がいかにいい加減なのか、についてもよくわかりました。

「メルトダウンしていない」

「格納容器は守られている」

「放射能は外部放出していない」

「チェルノブイリのような事故にはならない」

「いますぐ人体に影響の出るものではない」

政府が発表したことはどれもこれもデタラメでした。相変わらず放射性物質は漏出し続けていますし、累積した汚染水はきわめて深刻な状態にあります。一号機と二号機の間で

毎時一万ミリシーベルト超の放射性物質がいま頃検出されたり、福島県飯舘村ではチェルノブイリ原発事故で移住を強制された地域をはるかにしのぐ放射能汚染が確認されています。高濃度汚染水は海中に放出されハワイにまで漂っています。にもかかわらず、「事態は改善されている」とマインドコントロールされている人がまだまだ少なくありません。

わたしは昨年末（二〇一〇年）に自衛隊を退官し、現在「福島原発ではいま？　そして蘇^{よみがえ}る日本」というテーマで全国を講演して歩いています。YouTubeで流したところ、二時間もの長時間の話ですからそんなに見る人はいないだろうと思っていたら、あつという間に四万人を超えてしまいました。若いお母さん方がわざわざアクセスして熱心に見てくれているのです。いかに国民がほんとうの情報を欲しがっているかを痛感します。

ほんとうの情報力に裏づけられた国民の賢さがこれからの社会をつくっていくことに明るい希望を感じます。また、あらゆる分野で日本人のレベルがどんどん高くなっていることを感じます。

自民党から民主党に政権が代わり、「情報公開」が一気に進むのではないかと期待しましたが、自民党よりも酷^{ひど}い情報統制国家になってしまいました。一連の原発事故に関する報道など、戦前の大本営発表を思い出させるほどです。

三・二一以来、地面が揺れ、瓦礫^{がれき}の中でも、秩序を乱さず整然と生きている被災者に、世界中から驚異と尊敬の声がたくさん寄せられました。温かい激励の言葉もたくさんいただきました。

それに対して、政治と役所、東京電力の評価は最悪です。

原子力発電所所管の経済産業大臣が「原発安全宣言」を出して自治体首長たちと交渉している最中、「ストレステストを実施する」と突然横やりを入れる首相（アメリカの命令です!）。「辞任」を口にし、死に体の首相が地位にしがみついたために編み出した窮余の策は、悲劇を通り越して喜劇としか言いようがありません。大震災発生から百日後にして、ようやく専任の復興大臣を任命したかと思えば、被災地自治体首長への居丈高の物言いが問題視され、あつという間の辞任。

東京電力と経産省の原子力安全・保安院の記者会見を見るにつけ、東京電力という天下り先には絶対逆らえない官僚の姿が透^すけて見えます。専門家の集まりと思っていた安全・保安院が実はまったくの素人集団だったことも白日の下にさらされました。記者会見で活躍した西山英彦審議官（当時）は原子力の専門家でもなんでもなく、急遽リリーフとして呼ばれた人物で、元もとは通商政策局でTPP（環太平洋パートナーシップ協定交渉）の担当をしていた方なのです。記者会見で最初に登場した中村幸一郎審議官こそ専門家だっ

たのですが、いきなり炉心溶解（メルトダウン）の可能性を認めて広報担当から更迭されてしまいました。その後の推移を見れば、中村審議官だけが真実を発表していたことを国民はよく認識しています。

東京電力だけでなく、九州電力までもが「やらせメール事件」で組織、とくに経営トップの自堕落^{じだうく}ぶりを満天下にさらしました。

となれば、吹けば飛ぶような御用学者など、いかにスポンサーの走狗^{そうく}だったか。三・一一直後、東京電力の意向なのか、あれだけテレビに出ずっぱりだった東大の先生方もいまやすつかり雲散霧消です。

日本のエリート層はどこまで世界にダメぶりをさらせばいいのでしょうか？ 日本の民間企業は世界一の分野がたくさんあるのに、なぜ政治、役所、許認可に守られた大企業は三流なのでしょうか？

今回の東日本大震災でも、復旧復興のためには増税やむなしと考える人がいるかもしれませんが。普通の国なら、「天下り問題一つ解決せず、無駄を放置しておいてふざけるな」となるでしょうし、「借金？ 政治家と役人が勝手に借金したのに、返済できないから、国民にツケを回すなど冗談じゃない！ 責任を取れ！」という議論が出るのは当然です。

いままでの日本人なら泣き寝入りしたかもしれませんが、大本営発表のマインドコント

ルールが解けつつあるいま、政府や官僚、メディアが束になつてかかつて騙すことはもうできません。アメリカや中国もいままでのようにいくらでも日本人から搾取できると思つていたら大間違いです。なにしろほんとうの眠れる獅子を起こしてしまつたのですから。そういう意味では、大震災と原発事故、そして放射性物質による汚染という悲劇は日本人を目覚めさせる意義があつた、と考えることもできそうです。

経済がナンバーワンでも国家は一流にはなれません。技術力は高く、日本人は勤勉ですが、しかし景気はいつこうに回復しません。いつたい、わたしたちはどこでスイッチを切り間違つてしまつたのか。いまから軌道修正できるのか、本書でとくと考えてみたいと思います。

なお、敬称はすべて略させていただきました。

超マインドコントロール

日本人はいつまで騙され続けるのか！

目次

第一章

フクシマ原発事故は解決できるのか？ 愚かな政府はいまに始まったことではない！

- ▼ 原発事故はまだまだ収束していない！ — 16
- ▼ 福島第一原発事故以降ますます元氣な東京電力 — 20
- ▼ 御用学者の費用も国民が負担している！ — 22
- ▼ 放射性物質に対する日本と外国の温度差 — 24
- ▼ 静岡茶葉の汚染は浜岡原発が原因だった!? — 27
- ▼ ウソ八百だった東電発表 — 33
- ▼ 「三〇年間は故郷に帰れない！」どころではないフクシマの実態 — 35
- ▼ フクシマの真実 — 39
- ▼ 経産省には泥棒と警察が同居している — 42
- ▼ 原発立地自治体が財政破綻するカラクリがわかった！ — 45
- ▼ やらせメール風土を育んだ温床 — 47

- ▼住民をわざわざ放射性物質で汚染させた政府の「事なかれ主義」—— 50
- ▼愚かな政府の下ではどんな技術も宝の持ち腐れになる！—— 53
- ▼年間二〇ミリシーベルトの被曝量は労災に認定されるほどの危険値—— 55
- ▼二重に騙されている福島県民—— 59
- ▼隠蔽するから信頼を失った！—— 63
- ▼世界中だれも信じていない地球温暖化問題—— 67
- ▼計画停電などする必要はない！—— 70
- ▼自家発電が進めば電力会社はいらなくなる！—— 72
- ▼まず東京電力がいちばん最初にすべきこと—— 75
- ▼もんじゅは再稼働させてはいけない！—— 78
- ▼原発はテロリストに狙われたら終わりだ！—— 80
- ▼日本にふさわしい再生自然エネルギーとはなにか？—— 82

第二章

だれがやってもこんなもの？
政治が三流だからこそ経済が一流になる！

- ▼国民の命よりもマインドコントロールに懸命な政府——91
- ▼国益からはほど遠い政府、東京電力、経産省——94
- ▼原発はアメリカの押売り商品だった！——96
- ▼原発のブラックボックスは相変わらずアメリカが独占している！——98
- ▼アメリカとGEに訴訟を起こせ！——100
- ▼「日本の脱原発」で大儲けを狙うアメリカ！——102
- ▼実はすでに核武装していた日本！——104
- ▼孫正義の野望はアメリカと直結している——107
- ▼キッシンジャーの復活が意味すること——109
- ▼いつの時代もどの国もエネルギー確保が国策の筆頭！——111
- ▼太平洋戦争も愚かな軍事官僚のせいで負けた！——114
- ▼石油だけ確保すれば戦争などしなくてよかった！——117
- ▼愚かなリーダーが国を滅ぼす——120
- ▼戦争は始めるよりも終わらせるほうが難しい——123
- ▼「日本は官僚が支えている」という錯覚——126
- ▼第三の開国「TPP」をめぐる官庁が対立している！——129
- ▼アメリカは大豆禁輸で世界中に迷惑をかけている！——132

第三章

破綻寸前、待ったなし！ アメリカの抱きつき心中政策に乗ってはいけない！

- ▼経済の実態はその場しのぎのたこ足食い——140
- ▼地方財政はすでに破綻している！——142
- ▼オバマ政権の経済高官はすべて消えた！——144
- ▼ストロスカーンがはめられた理由——146
- ▼フォートノックスには最初から金塊などなかった!?——149
- ▼総理大臣就任直前にはめられた小沢一郎とストロスカーン事件は酷似している——152
- ▼差別と貧困、略奪と戦争が好きな国アメリカ——154
- ▼リンカーンは黒人の味方ではなかった！——157
- ▼大統領などだれがなくてもこんなもの——ヘレン・ケラーの絶望——160
- ▼ベトナム戦争の目的はイラク戦争と同じだった！——162
- ▼オサマ・ビンラディン暗殺の目的——164
- ▼日本人よ、トモダチ作戦に騙されるな！——166

第四章

尖閣諸島問題は 中国の国家破綻で自然解消する！

▼起こるべくして起きた中国新幹線事故——172

▼ほんとうの原因は賄賂体質と手抜き工事——173

▼どうせ穴の中、事故究明は期待するだけ無駄！——175

▼世界中からカモにされる中国人——178

▼学生の就職難が社会不安を煽っている！——180

▼「黄巾の乱」に酷似する現代の中国——182

▼漢民族などいなかった！——185

▼中国とアメリカの対立に巻き込まれてはいけない！——187

▼日本の戦略は「じつと待つこと」——190

第五章

外国にモデルはない！ 二世紀の日本は「江戸」を目指せ

- ▼たかられるのはもうやめよう！——194
- ▼徳川幕府は意外に情報通だった！——196
- ▼列強のやり口をとくに理解していた！——199
- ▼オランダの新聞を読めばヨーロッパすべてがわかった！——201
- ▼参勤交代は情報メリットがたくさんあった！——203
- ▼菅政府とは比較にならないほど機敏な江戸の地震対応——206
- ▼江戸は住人の自治システムで機能していた！——208
- ▼花魁として生きていける福祉制度があった！——210
- ▼日本列島改造論の先駆けは徳川家康——212
- ▼江戸の町は世界一清潔なりサイクル社会だった！——214
- ▼江戸の庶民の楽しみは小旅行——215
- ▼江戸時代から日本人は教え好きで勉強好き——218

